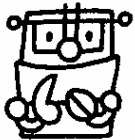


小 / 理科 / 6年 / 物質とエネルギー /  
物の燃え方と空気 / 理解シート

## 火が燃えた後、へった酸素はどうなったの

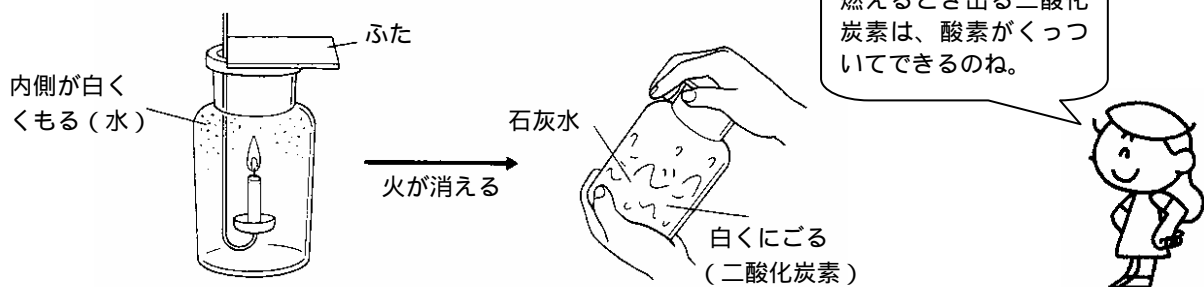


**酸素は、二酸化炭素や水などに変化してしまったのさ。**

下図のように、ふたをしたびんの中でろうそくを燃やすと、やがて、火が消えてしまいます。そして、びんの内側に、水てきがついてガラスがくもっています。

このびんに、<sup>せっかいですい</sup>石灰水を入れてふると、とう明な液が白くにごり、びんの中に二酸化炭素ができていくことがわかります（石灰水は、二酸化炭素を<sup>きゅうしゅう</sup>吸収して、水にとけない炭酸カルシウムをつくるため白くにごる）。

空のびんに、石灰水を入れてふっても、液はにごりません。これは、空気中の二酸化炭素の量が、約0.03%と非常に少ないためです。



### 酸素がへった後に、二酸化炭素と水ができていく

ろうそくが消えたのは、びんの中に、燃えるのに必要な酸素がへってしまったためです。そして、びんの中には、二酸化炭素や<sup>すいじょうき</sup>水蒸気ができます。

ろうそくや木、紙などは、どれも、炭素に水素や酸素などが結びついてできています。これらが燃えるときは、熱で成分が分解されて出てきた気体に、空気中の酸素が<sup>きゅうげき</sup>急激に結びついて、このとき熱や光を出します。つまり、ろうそくの成分が分解してできる炭素や水素に、酸素が結びついて、炭素と酸素から二酸化炭素が、水素と酸素から水ができたのです。